# 第2回南あわじ市総合計画審議会

## 議事要旨

日　時：令和8年3月 19 日（木）13 時 30 分～16 時 00 分

場　所：南あわじ市役所本館 304・305 会議室

議題

1 開会

2 あいさつ

3 議題 目指すべき将来像（案）について

4 その他

３ 議題

目指すべき将来像について

事務局より以下の資料を用いて説明

１：第2回総合計画審議会について

２：南あわじ市の将来人口の展望

３：第１回南あわじ市総合計画審議会での質疑に対する回答データ

４：小・中・高校生　意識調査結果

**委員**

「第2回総合計画審議会について」の資料の最初で、「将来都市像」という表現になっているが、都市というと一般的には神戸や姫路を指すと表現だと思う。行政用語で都市という表現をしているならいいが、普通であれば「本市の将来像の検討」とかになるのではないか。

アンケート結果に目を通してみても、「自然が多い」とかいう“田舎”の評価が出されているのに最初に都市像という表現が出てきていることが違和感。

**会長**

前回の将来像を見ても、「人がつながる　笑顔あふれる　ふるさとづくり」という書き方で大阪や東京都のようなイメージではないというのは共通認識として持っていいのではないか。都市という言葉がどういった範囲を示すのかは論点になると思う。

私から委員の皆さんへの問いかけとして、現在の将来像は住むことをグレードアップしていくことを考えているが、まちというのは住むだけでなく、働く、遊ぶでできているといわれる。住むというのは福祉や教育を受けること、働くというのは本市に住まなくても働く、外国人は特にその傾向があるが、一定期間だけの居住。遊ぶというのは観光とかに市に半日だけいるような方。そういったことを本市はどのように受け止めるのか、流入人口に寄りすぎてまちらしさが無くなることは好ましくないが、閉じてしまうと人が来ない。そういったところが論点としてあるのではないかと思う。

**委員**

これからの地域都市間の競争は地域ごとに独立した要素をもっていかないと結局横並びの同じような地域になってくると思う。今の南あわじ市でどういった独自性を出していくのかという意味においては地域というより都市とする方がしっくりくるのではないかと感じた。

**会長**

都市計画では機能が集めて効率よく機能を発揮できる場所が都市と呼んでいて、規模とかは関係ない。

**委員**

私は固すぎると思った。住みたいとか仕事をするとかの枠を作るのではなくて、例えば「癖になる南あわじ」みたいな聞いた人が想像するようなものがいいのではないかと思う。

もう１つ意見として資料が多くてもったいない。準備する職員も大変だと思うが、差し替えの部分のみを印刷する方が経費削減になると思う。

**会長**

こういった計画は最初の部分はぼんやりとしたビジョンとなる。後ろに行けば行くほど細かい説明になってしまうので、今委員が言ったような提案が書きにくくなる。そのためこの段階で市民が共感できるようなとか想像してもらえるという提案は計画の策定としてもその通りかなと思う。

**委員**

東京生まれ東京育ちで南あわじ市に移住して結婚もした。昨日東京から帰ってきて、改めて住むなら南あわじ市だと思った。淡路市や洲本市も仕事で行くことがあるが、観光はやはり淡路市だと思うが、住むなら南あわじ市だと思う。

今は飲食店で働いているが、また来たいと言ってくれるお客さんもいる。そういう方に南あわじ市の良さをアピールするとしたら住みやすさだけでは弱いと思うので、さっき委員が言っていた、「癖になる南あわじ」みたいなものがいいと思う。今の「住みたい」は市民目線でしか表現できていない。

**委員**

出身が神奈川県で、仕事で引っ越してきた。住むのは徳島市や淡路市というのも検討していたが、ここのふるさと創生課の方で補助金などの紹介をしてもらい、移住や新婚・新居についても南あわじ市の補助金を使わせてもらっている。

それぐらい移住者を増やそうという動きが見えるのが南あわじ市だと思う。もちろん観光では淡路市等も大きいと思うが、人口を増やすとか人口を減らさないという観点で見れば、住むことを売りにした方が人が増えるのではないか。

また、南あわじ市は渋滞がとても少ないところも長所だと思う。そういったことも活かせるようなものを考えていきたい。

**会長**

新しい方を受け入れるというのは施策としてあって、それをどのレベルまで前に出していくかだと思う。

**事務局**

今回の会議の位置づけの補足をしたい。今までの委員の皆さんの意見は今回の審議会にマッチした意見だと思う。今の将来像は 10 年前の将来像のため、今みると感覚が違うというのはその通りだと思っている。

補足として、今回は第2回、第3回を6月に予定しているが、この2回、3回を通じて将来像を作っていくことになる。委員から指摘されました資料送付が前日となってしまったことは申し訳ない。第2回では将来像の要素となることを委員に発言いただき、次回はそれらをまとめた上で将来像を決定していきたいと考えている。そのための1つの材料として、アンケートやワークショップ結果を報告している形になる。今回は次回の決定に向けた意見をいただく位置づけとなっている。

**委員**

将来都市像について明確な答えはないのかもしれないが、今後将来的に市民に計画を示すときも将来都市像が前提となって進んでいくのか、それとも行政用語としてこの言葉を使っていくのか。その辺の答えはあるか。

**会長**

今回の資料で都市像としているが、現計画では南あわじ市の目指すべき将来像と書いていて、それぐらいの言葉で、今回も同じ理解で良いのではないかと思う。資料の掲載上こう書かれただけだと私は認識している。

**事務局**

総合計画というのは行政も当然だが市民の皆様がどういったまちを作りたいかが前提で、将来像を決めたいと考えている。そこで仮に都市像という言葉が邪魔してしまうのであれば、将来像に今後統一する。また、現計画でも使っていない表現ではあるので、資料上の表現となる。

**会長**

アンケートを見ると一般的に想像する都市を目指してほしいみたいな答えもある。それを踏まえるとある面では自然豊かとやはりそういった都市部的な交通の面や暮らしやすさ、買いものの便利さとかがあると思う。

部長は邪魔していると言っていたが、邪魔しているのではなく都市という言葉に引っ張られてイメージが固まることはない方がいい。他の委員も言っていた「固い」だったり、資料が多いとかそういったことも含めて、仕事感があるものではなく、みんなに共感を求めるような言葉遣いの方がいいかもしれない。

**委員**

意見を言いにくい人もいるかもしれないため、ランダムに当てた方がいいのではないか。

**会長**

私はあまりそういうことはしないが、後半の全体での意見交換の場で、少なくとも1人 1 回は発言するということで進めていきたい。

事務局が引き続き資料説明

**委員**

アンケート中に企業誘致が出ているが、労働人口を増やそうと思ったときには企業ではなく、居住先を確保することが必要だと思う。10 年前までは、企業誘致をした際には企業団地も一緒にできていた。今はもう企業団地とかは建てないのかもしれないが、新しい企業誘致の方法を行政は何か考えているのか。

**事務局**

答えから言うと企業団地みたいなものは現時点では考えていない。本年度から資産活用推進室という部署を設け、廃校などの土地をこれまでは地域を活性化する事業に限り募集をしていたが、なかなかうまくいっていなかったため、市の持っている資産として活用していくという方向に転換している。

企業誘致とは話がずれるが、こども議会などで公園が欲しいなどの要望があった。最近の夏の酷暑などの環境の変化も踏まえて地域の資産活用として進めている。

**委員**

企業誘致と書いてある以上はどこかが窓口になって、紹介してもらい、企業に働きがけをするのが、企業誘致だと私は考えているが、募集することと、誘致することがイコールということでいいか。

**事務局**

数年前と異なり、企業誘致をするにも雇用というのが人の取り合いになっているところもある。雇用を生みたいために企業誘致をするがその雇用が全国で取り合いとなっているため、事業者と住民が一緒に来てくれるような企業や、市民が楽しめる場所として企業誘致の観点も持って考えていきたい

**委員**

商工会長という立場で話すが、前回の質問に対しての回答を出してもらっているが、ここで有効求人倍率が出ている。みると南あわじ市の有効求人倍率は1.71倍となっていて、商工会の立場から

すれば新しい企業が来なくても働く場はあるという認識。ただその職環境が満足するかというのは違う話だ。

大手の企業や関連企業、条件のいい企業だけが誘致の対象でもないと思う。建設業中心に人が欲

しいけど集まらないと悩んでいる企業も多くあるため、働く場を作る、企業を誘致するということで解決できる問題ではないのかなと思っている。

**委員**

高齢者社会に対応するためタブレットを各戸配布というのがワークショップ結果で書かれているが、タブレットを置くのはどのような家庭に配布することになるのか。

**事務局**

これは市民の方の1意見としてこうしたらどうかという考えのため、現状市ではそのような考えはない。

事務局より小・中・高校生アンケート結果・将来人口の展望を説明

**委員**

46 歳でこどもも産んでいないが、南あわじ市では産科も産婦人科もなくて不妊治療が大変だった。徳島に毎日通ったが、他の人でも神戸に通ったとかいう方が多くいるため、そういった環境をまず作っていかないと出生数が上がらないのではないか。洲本市にレディースクリニックができていけるようになったが、医療センターの婦人科は全然空いていなく、また先生もすぐ変わってしまう。

これから移住する人も今の若い人もこどもを産める環境が南あわじ市にあるのかを考えていかないといけない。女性が安心してこどもを育てられる環境も大事だが、まず出産できるのかを考えてほしい。

**会長**

今の議題でいうと合計特殊出生率が 2.06 を実現するかというと間違いなくしないと思う。

今結婚しない、こどもを持たないという選択をする方もいる中で平均して2人産むというのはものすごくハードルが高くて、これを目指すのであれば他をやめてでもそこに全力投球するということがひつようだと思う。そのため、今の水準で人口を少し改善させることを目指しながら、幸せな南あわじ市を目指していくというのが自然だと思う。この審議会ではそれをどうするかという問もあるような気がする。

**委員**

将来人口は本当に驚いた。出生数を上げるのはなかなか達成しづらいことだと思うが、観光業をしている立場からすれば、観光客を呼んで。また働く人を呼んで、できればそのままここに長く住んでもらう、絶対数を増やしていくことを目指している。若い人は残念ながらやめてしまう人も結構多いが、中には地域の人と結婚し、南あわじ市で住むようになったこともある。

公共交通や、病院、教育といったことを考えると、都心部の人が一時的に南あわじ市に来て、比較して住環境が整っていないということはわかる。そのため住環境においてもトータルで満足度を上げていくことで人口を増やしていくような積極的な計画にしないと厳しいのではないか。

**会長**

昔はいい大学に入って、大きい会社に入って高い給料をもらうことが唯一の人生成功ルートだったが、地域に貢献したいとか、誰かの役に立ちたいとかそういった意識を持った方もいるように価値観が変化しているのでそれを踏まえての提言だったと思う。

**委員**

産まれるこどもの数もそうだが、結婚しない人が増えている話があると思うが、婚姻率も上がってい

くという話はこの推計の中でどう考えてているのか教えてもらえるか。

**ぎょうせい**

合計特殊出生率というのは結婚されている方の割合と結婚したカップルが実際に産むこどもの数両方の関係で決まる。明石市では子育て環境が整っているとして全国的には有名だが、結婚しているカップルが多いから合計特殊出生率が高くなっているだけで、夫婦が持っているこどもの数自体は少ない方、今日は人口全体のデータを示していないが、次回の審議会では人口ビジョンも整理して指摘されたデータを示していきたいと考えている。

しかし、婚姻率については将来推計というのが全国的に難しいものとなっていて、ご承知のように晩婚化、非婚化も非常に増えているが、これまでの動向については示していきたいと思う。

**会長**

結婚の推計は難しいが人口についてはほぼ当たるというか確定する。大体 30 年ぐらいはこれでいくことは確定していて、そこからカーブをどう曲げるかという長期の話になるといいうこと

後半　会全体の意見交換

**委員**

委員より持参資料について説明。

**委員**

人口が減っていることが先ほどの説明では強調されていた。市役所というのがすべての市民の事を考えるのが当然だとは思うが、ある程度ターゲット層を決めて考えなければいけないのではないかと思う。

子どもが減っているという話だったため、人口を増加させるためにも 20 代から 30 代の人を外部から呼べるとその内子どもが増えるんだと思う。前半から仕事の話をしているが、仕事先が市内なのか島内なのか、神戸や徳島なのかで変わってくる。

市内の仕事はあるという話だったため、そうすると市内での仕事を充実させて人を呼ぶには大きな改善が必要だと思う。島内も同じ状況。島外で働いたとしても南あわじ市で生活できることが重要。私の知り合いにも何人かいる。

南あわじ市をアピールする上では、自然が豊かなことが強みだと思う。大学で学生を呼ぶときも、釣りやキャンプなど、学生を楽しい事ができるよと言って売り込んでいるため、そういった好きな事や、趣味をできる環境で生活できるということを伝えられればいいのではないか。

**会長**

住みたいという言葉だけでは理解されにくいため、そういったシナリオを仕立てることもこのレベルではやることがある。

**委員**

キーワードをどうするかだと思う。前回は「住みたい」だったが、今までの話では、働く・生活するなど、どういった暮らしができるかを考えるときっかけになると思う。キーワードではこう暮らすというキーワードを起点として広げていくといい。

**委員**

障害者の就労支援をしているが、将来の障害者の暮らしが心配。自助・共助・公助というが、共助が人口が減っていくと維持できなくなるだろうと不安になっている。

観光の話では、観光客は美味しい食べ物や豊かな自然を求めてやってくるが、人口が減少し、自然が放置されたり、食でも生産者が減ってしまうことで魅力が落ちていってしまうため、第一次産業は重要だと思う。農業や漁業は祭りなどの昔の文化にもつながっていると思うため、私は企業誘致などよりも第一次産業を豊かにしてほしいと思う。

**会長**

都会では共助が失われているが、南あわじ市ではそれをいいところとして伸ばしていこう、続けていこうという話だった。

もう1つの意見はそれぞれ興味があることだけでなく、様々な分野が繋がっているため、1つ1つつなげていって地域を楽しくしていくなどの立て付けができるといいという話だった。

**委員**

自助・共助の話が出たが、高齢者にはありがたい。そういったことを売りにしたいと地域で入っている。今までの話を聞くと、「自然」を売りにする意見が多いと思う。都会がいいのか、田舎が良いのかという話。南あわじ市はやはり農業を中心として第一次産業が発展している「田舎」だと思う。そのため田舎らしい地域そのものが人間味のある町になるといいのではないか。

**会長**

私は農村にニュータウンができたところに職場があるため、そこでは「とかいなか」という言い方をしていたりしている。

**委員**

食生活推進委員をしている。南あわじ市は会員が 230 人ぐらいいるが、高齢化が進み、段々会員数が減少している。この前、全国での会議に出席したが、鹿児島県などでは会員が増えているといっていた。やり方を聞くと、自治会やこういった会議などで1人ずつ、会員として受ける人を出してくださいと頼んでいるそうだ。

活動としては親子や小学生、またロングライドの方に料理を提供していたりする。伝統料理などを小学生に教えているが、会員が減少すると、地域のグループがなくなり、活動できなくなる。

活動を維持していくためには子どもから高齢者までの地域の繋がりが重要だと思う。どのような行事でも1つの年代ではできないため、そういった繋がりを地域で作ることができれば、将来出ていっても戻ってきたくなる地域になるのではないか。

**委員**

南あわじ市民として嬉しいことはないか考えていたが、「ゆーぷる」は今度値上がりするが、そういったものが安くなればいいなと思った。高齢者も多く来ている。そういった住んだら特典があることや野菜や牛乳といった地場産品を地元に人が安く買えるような仕組みを作ることができれば、現在住んでいる市民が喜ぶと思う。

そういったみんなが集まる場を作って子どもから高齢者まで会えるようにしてほしい。

**会長**

そういった場は日本はお風呂、アメリカはボーリング場だという。

**委員**

島外の方が南あわじ市に住んでみてこそわかることがあると思う。こどものアンケートがあるが、こどもは他の地域に住んだことがないため、アンケートの回答というのは現状で h ないと思う。住んでいる人には見えていない部分が合って、風呂が無料や野菜が安価、トラフグがもらえるなどびっくりするような特典がある。それを親が受けて喜んでいる姿を見て南あわじ市はいいまちだと子どもは思い、都会で働いても将来的に帰ってくるようになるのではないか。

息子が茨城県で働いているが、今度南あわじに帰ってきたいと言い出した。そういった故郷が良かったなという心があれば、帰るきっかけになるのではないか。

**会長**

冒頭に言ったように、「すべきこと」ではなく、楽しいことなどを書くということもあり得ると思う。そういったニュアンスは体系図の施策ではなく今検討している将来像の込められた想いに書くといいと思う。

**委員**

10 年か20年前にブータンの王子が来た。世界一幸せな国といっていたが、確かに幸せそうな顔をしていた。南あわじ市でも世界一幸せな島とかで市長が PR してくれればと思う。

こんな市になったらいいというのは自然も心も豊かなこと、また先ほど南あわじ市の所得が低いという話が出たが、第一次産業が最も儲けられるような仕組みになるといいと思う。

そして、人が来ないと南あわじ市は発展していかないと思う。吉備国際大学から学生が来てくれていて、居酒屋などのアルバイトでも学生や養殖業者の従業員でも卒業生がいてとても地域の役に立っていると思う。近畿大学の研究などが人気だが、吉備国際大学も同じように人気になり、学生が増え、移住してくれるようになったらいいと思う。

八幡の役員もしているが、手伝いに来てくれる人の半分は移住者となっている。反対に地元の人が来なくなっているため、多くの人が来てほしいと思っている。祭りも今は 20 人程度だが、3年もすれば 10 人ぐらいになってしまうため、継続に向けて頑張らなくてはならない。

**会長**

改めて何をするべきかということを入り口にすることは難しくて、楽しくやることで地元の人も手伝ってくれるようなこともあるため、全体としてそういった「楽しくやる」ことに論調をもっていった方がいいと思う。

中央の「5つの行動」も「超高齢化社会の克服」などはとても「やるべきこと」の書き方だと思う。そのためできるだけ夢があるようなやりたい、楽しいと思えるようなものにしていければいいと思う。

**委員**

出身は南あわじだが、15 年前までは東京で働いていた。東京で働いていた時はまちのスケールが大きく、自分が何かをしてもまちに貢献できている気がしなかったが、南あわじに帰ってきたらスケールが小さく会いたい人には大体会えるような土地だと思った。社会課題に対して自分なりの解決方法を考えたりしている。

私のシイタケ工場では淡路島のものを混ぜられないかということでメカブを買って菌床にまぜこんだりしている。メカブにしかない成分がシイタケから出てくればいいと思ってしていたが、そういったことも自由に南あわじではできる。そういったビジネスをやりやすい地域だと思う。

移住者がすぐビジネスをできるかと言えば難しいと思うが、新興の会社が増えていっていると思うし、移住者が就職していけるような環境だったり、第一次産業の後継者になり易くなったりすることで、

ビジネスをやりやすい環境を作っていくことが必要だと思う。

また移住者にはまちの担い手になってほしい。市外で働くのではなくて、市内で自分の商売を持つ人が出てくれば、社会の担い手になってくれると思う。

お金を出すだけでなく、M&Aのサポートや農地集約の手伝い、空き家の積極的な解体等があると思う。

**会長**

チャレンジしていくことなどの余白の部分については、大事だと思う。

**委員**

鹿児島の話をしたが、うまい声かけの方法が難しい。新しい方はもちろんだがずっと住んでいる方でも距離を置いている人がいるが、そういった人に声をかけてみると喜んでいるしやってよかったと回答している人が多い。そういった仕組みや繋がりを色々なところで伝えていければと思った。

**委員**

住むのにあたっては安全性や自然、地域の繋がり等が最低限重要だと思うが、東京とは違い便利さはないため、これから移住者を増やすためにはそういったことに最大限配慮してまちづくりをしてほしい。

また、自然を活かした暮らし方では、自然環境保護や地元産品を活かした生活や車がなくても生活できる交通手段の確保、高齢者向けの送迎や必要な施設の集約などをしてほしい。

**会長**

本質的な話だったと思う。基本的な事を書けば書くほど南あわじ市を他の自治体名に変えても違和感がないようなことになると思う。これから議論を進めていく上で、具体的にあの場所や地元に人が良く使っている言葉を使ったりすると南あわじ市の綜合計画として伝わりやすくなると思った。

**委員**

女性消防団の分団長としてきている。南あわじ市は病院の診察台や他地域に受診に行く際のタクシー代の補助があり、そういった住民への補助は手厚いと思う。

また、淡路市や洲本市と比べて学童保育やアフタースクールも充実している。週２回小学校の支援にいっているが、アフタースクールでは地域の先生等を読んで、水産業の話や食育の話などをしてくれていて子どもに南あわじのいいところを伝えられていると思う。

女性消防団は15名しかいなく、次の会員が入ってこないが、明石では希望者が多く定員以上に来ているという話を聞いているため、そういった仕組みも知りたいと思う。

**委員**

農業関係で様々な土地に行くが、どこに行っても淡路島といえば玉ねぎをほめてくれる。社交辞令であってもそういった魅力がある土地なんだと思う。

南あわじに住んでいる人が幸福度や満足度をどれくらい自認できているかという話だと思う。そういったことを高めていくことが魅力発信につながると思い、それが目指すべきところだと思う。

**会長**

今日はまとめはないが、事務局のほうで今回の意見をまとめる。今回全部意見が言えなかったという場合でも、メールとかでいただければそれも合わせてまとめていく。

**事務局**

次回の審議会は6月となる。日程決まり次第改めてお知らせする。また、次回は必ず終了時刻及び資料も相当な期間を設けた上で事前に送付する。

今日は様々な意見をもらい、南あわじ市の将来の姿の要素が見えてきたと思う。
メール等でも意見の続きをいただきたい。